平成２７年度調査研究計画説明会　挨拶

平成２７年５月１９日
幌延深地層研究センター所長 清水和彦

○本日はお忙しい中、幌延深地層研究計画 平成２７年度調査研究計画の説明会に足をお運びいただき、ありがとうございます。

○昨年度を振り返りますと、原子力機構においては、「もんじゅ」や「J-PARC」といった研究施設での不祥事を契機とした機構改革の年であったと言えるかと思います。その一環として、幌延深地層研究計画については、これまでの研究成果を取りまとめるとともに、これを踏まえて今後実施していくべき重要な研究課題の整理などを進めることができました。

○また、時期を同じくして行われた独立行政法人の制度改革を受けて、本年度から国立研究開発法人日本原子力研究開発機構として、まさに新生原子力機構に向けた新たな一歩を踏み出しました。これに伴い、これまで５年間の中期計画に基づいて原子力機構の事業を行ってきましたが、本年度からは国立研究開発法人として７年間の中長期計画に基づいて事業を進めていくことになりました。

○幌延深地層研究センターについては、その役割や体制が変わるわけではありませんが、これを機に心機一転、気持ちを新たにして業務に取り組んでいきたいと考えています。

○幌延深地層研究センターでは、昨年度、地下３５０ｍの深さに研究用の水平坑道を整備するための工事が無事完了し、文字通り深地層における本格的な試験に着手することができました。

○このように幌延深地層研究計画が順調に進み、着実に成果をあげつつあるのも、幌延町を中心とする地域の皆さまのご理解、ご支援の賜物と深く感謝しています。

○一方、実際の地層処分の事業については、処分場の候補地すら見つからないという状況が長く続いているわけですが、こういった状況を打開していくために、国が前面に立って科学的な見地からみた有望地を選び提示していくという政府の方針に基づいて、その選定の基準や手順などが国の作業部会で議論されているところです。

○このような状況の中で、幌延深地層研究センターが今後とも研究開発の中核的な拠点としての役割を果たし続けていけるように、国の方針や処分事業の進展状況などを見据えながら、柔軟性をもって研究開発に取り組んでいきたいと考えています。また、研究開発を進めながら将来の計画についても検討し、平成３１年度末までに、研究終了までの工程やその後の坑道の埋戻しなどを含む全体の計画を策定する予定です。

○いずれにしても、研究を始めるに際して幌延町および北海道との間で取り交わした三者協定が大前提ですので、「放射性廃棄物を持ち込まない」、「研究が終わったら地下の施設は埋め戻す」といった約束をしっかり守りながら公明正大に、かつ最大限の成果が得られるように進めていければと願っています。

○今後とも、安全を第一に情報公開を徹底させながら、着実に研究開発を進めていきますので、引き続き、ご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いします。